

文化の風が吹くまち ちくしの

文化薫道

問い合わせ先／文化財課(歴史博物館内)

☎(923)8419

一其の三十二

伊能忠敬測量隊、山家に至る

今から約200年前、千葉県に生まれた伊能忠敬は、酒造りを営む伊能家の婿養子となりました。家業を全うして隠居した後、江戸で天文・暦学を習いました。56歳から、生涯の17年間

をかけて、「大日本沿海輿地全図(だいにほんえんかいよちぜんず)」という日本地図作成のために10回にわたって、全国を測量して歩きました。測量隊は第七・八次測量時

屋である中茶屋(長崎屋)に、別働隊は下茶屋(薩摩屋)に宿泊しました。当時町茶屋は幕府役人のほか、街道を行き交う人の英気を養うための宿泊や休憩所でした。



当時の姿が残る山家宿西構口(県指定史跡)

に九州の測量を行っています。第八次測量の際に再び九州の地を訪れた測量隊は、長崎街道を歩き、飯塚市の飯塚宿内野宿に泊まりながら測量を行っていきま

現在、町茶屋の建物は残っていませんが、付近には山家の宿場の創設年が刻まれた恵比須石像や、宿場の西側の出入口にある土堀の痕跡の西構口(にかまえぐち)は現在まで残っており、県内でも貴重な文化財となっています。

から測量を行っていきま

この西構口を出た測量隊は、薩摩街道を通って南の小都市の松崎宿へ向かい、九州各地の測量へと旅立つのです。

訪れます。文化9(1812)年2月4日に忠敬隊は山家宿の町茶

この機会に伊能忠敬が通った宿場町や街道を訪れてみてはいかがでしょうか。

